



新しく入った本7

1月16日までに受入した本

99%アありがとう
ALSにも奪えないもの



ALS(筋萎縮性側索硬化症)になって3年ちょっと。今は左手人差し指と顔だけしか動かない。「こうなることがわかっていたら、もっと周りの世界を感じ、見て、呼吸して、感謝の気持ちを持って過ごしていたと思います。だから皆さんは、明日公園で散歩して、その楽しさを味わってください」(203p)

じつはスゴい股関節



日常もスポーツも、大切なのは「股関節」。立ち方、歩き方の基本や、楽しくラクに身体を動かすコツを伝授。じつは、スキーも股関節の使い方が大事なんですよ。

ここで紹介した本は入り口近くにコーナーを作って展示しています。どれでも借し出しOK！

くまモンの秘密



くまモンが登場して3年。昨年は世界進出までしてしまっ。これほどの人気キャラに育てたのは熊本県庁のチームくまモン。そのプロジェクトの内容がわかります。

わたしが正義について語るなら



最初に書いた『あんぱんまん』は、砂漠で疲れて動けなくなった人のところにアンパンマンがやってきて、自分の顔を食べさせるという話。ところが大人には全然受けなかった。最初に認めてくれたのは3歳～5歳の幼児だったという。

晴れた日は図書館へいこう



館内にこっそり置かれ続けるドッグフードの缶詰、半世紀前に読んだ題名のわからない本を見つけてほしいという依頼…。図書館が大好きなしおりが、司書をしているいとこの美弥子さんと一緒に、本にまつわる謎を追う。

なんか気分が晴れる
言葉をください



Q:「偽善」って何ですか？
A: 人生の「舞台」で、休みなく「役者」として生きること。(109p)
Q: 父親が嫌い。愛せません。
A: 他人と思いなさい。(99p)
Q: 見えるものしか信じられません！
A: それじゃ、あんたデジカメと一緒に！(67p)
Q: 「あんたなんか産まなきゃよかった」って言われました。
A: その言葉に、乗っかるなよ～

3学期も



わたし（司書）のおすすめ！！

『私を知らないで』 白河三兎 著



中二の夏休みの終わりに、「僕」は横浜市の郊外に転校した。初めてクラスメイトにあいさつしたとき、とても美しい少女「キヨコ」が目にとまるが、なぜか彼女はクラス中から無視されていた。休みの日には渋谷に出かけて「ウリ」をしているという噂もある。それを確かめようと「僕」は「キヨコ」の後をついていった。すると…。同じ転校生でも極力目立たないように過ごしている「僕」(黒田新平)と傍若無人にふるまう高野三四郎と「キヨコ」(新藤ひかり)を中心にものがたりは進んでいく。最後まで気を抜けない展開にドキドキし、ちょっと切なく感じる物語。

『星のかけら』 重松清 著



それを持っていれば、どんなにつらいことがあっても耐えられるというお守り「星のかけら」。ウワサでは誰かが亡くなった交通事故現場に落ちているらしい。小学六年生のユウキは、星のかけらを探しにいった夜、不思議な女子、フミちゃんに出会う。調べてみると、数年前に事故で亡くなっていることがわかった…。

『ツナグ』 辻村深月 著



一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者(ツナグ)」。突然死したアイドルが心の支えだったOL、年老いた母に癌告知出来なかった頑固な息子、失踪した婚約者を待ち続ける会社員…。どの物語もうるっときます。もし、亡くなった人に会えるとしたら、あなたはだれに会いたい？

『ジョーカー・ゲーム』 柳広司 著



太平洋戦争突入前の昭和10年代。結城中佐が独自で陸軍内につくったスパイ養成機関“D機関”。陸軍からは猛反発を招くが、その卒業生たちが成果を挙げていく。戦争ものか～としばらく敬遠してましたが、読んだら面白かった。

『死ねばいいのに』 京極夏彦 著



タイトルはちょっとカゲキだけど、決して、死ぬことをすすめる本ではありません。ある日、アサミが何者かに殺された。4回しか会ったことがないというケンヤは「アサミのことが知りたい」と、アサミの会社の上司、実の母親、マンションの隣人などに話を聞きに行く。しかし、そこから出てくる話は自分に都合のいいことばかり。とどめを刺すようにケンヤはつぶやく。「死ねばいいのに」。さて、犯人は？

